

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2016年2月）議事録

日時：2016年2月19日（金）午後5時30分～7時00分

場所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登、永富良一副理事長、

碓井外幸常務理事、大野 誠、小野寺昇、
甲斐裕子、勝村俊仁、後藤勝正、下光輝一、
須田和裕、武政 徹、竹森 重、田中喜代次、
田畑 泉、成田和穂、西牟田守、能勢 博、
宮地元彦各理事、井上 茂、清田 寛、
小林康孝、定本朋子各監事、
立身政信（第71回大会長・岩手）、
山本直史（第72回大会事務局・愛媛）

欠席者：西平賀昭副理事長、川原 貴、栗原 敏、

坂本静男、内藤久士、浜岡隆文、
山内秀樹各理事、
田島文博（第70回大会長・和歌山）

【審議事項】

1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。

2. プロジェクト研究について （須田プロジェクト研究委員長）

配布資料に基づき、これまでのプロジェクト研究への公募状況について報告がなされ、最終的に2件の応募があったとの報告がなされた。応募があった2件を委員会において審査した結果、下記の研究グループを採択したいとの提案がなされ、理事会として承認した。

採択プロジェクト研究：

「女性アスリートにおける股関節回旋と膝前十字靭帯損傷との関連性に関する研究」

研究代表者：安田 義（神戸市立医療センター中央市民病院／整形外科部長）

3. 日本筋学会との連携について（後藤理事）

配布資料に基づき、日本筋学会の武田理事長より本学会と連携できないかという提案を受けた旨、報告された。審議の結果、設立したばかりの学会で、どのような活動をする学会なのかが掴みきれていないため、今後の動向を見極めた上で再度検討することになった。

4. JPFISMの広告掲載について （田中編集委員長、後藤編集副委員長）

本部事務局宛に広告代理店より、JPFISM誌に広告掲載が可能か、可能な場合、日本語と英語両方の掲載が可能か否かの問い合わせがあったことが報告された。編集委員会としては広告掲載は広告料が学会に入るメリットがあるので受けたいとの提案がなされた。審議の結果、広告掲載に関するポリシーを作成した方がいいのではないかと意見が出され、ポリシー作成

は総務委員会が担当することになった。尚、JPFISM誌には日本語での掲載は受け付けず、英語での広告に限るという事で了承された。

5. 福井大会について（武政総務委員長）

総務委員会より第73回福井大会の大会長候補者として、「戎利光先生（福井大学・教授）」を社員総会に推薦したいとの提案がなされ、承認された。また、同事務局長候補者として「山田孝禎先生（福井大学・講師）」が推薦され、了承された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会報告（武政委員長）

・会員名簿について

会員名簿記入申請締切日が過ぎた2月19日現在、正会員・名誉会員4,152名の内、未回答2,301名、回答済み1,851名との報告があった。今回は名簿を作成することで了承を得ているため、作成するが、今後名簿を継続・作成するか否かについて名簿廃止も視野に入れて検討を重ねていく旨、報告された。

・NHKからの協力依頼について

昨年末にNHKから協力依頼があった、番組への協力依頼（会員へのメール配信）について、放送された番組を確認した所、学会員としての発言は特定されておらず、協力した一覧に学会名が出ているだけで、NHKと交わした約束については守られていたとの報告がなされた。

2) 編集委員会報告（田中委員長、後藤副委員長）

・投稿規定の改定について

JPFISM Vol. 5-1掲載予定のReview, Referencesにおいて、著者数374 文字数4,000を超える文献があったと報告があり、J-STAGE上の引用文献の公開画面の規定は、最大4,000文字となっているため、JPFISM投稿規定の「References」について、著者数の上限を20名に設定し、それ以上はet al.と改訂した旨、報告があった。

・二次出版について

二次出版とは、「他誌に掲載された論文や総説を、別の雑誌に同じ言語もしくは別の言語で掲載する」ことである、との説明がなされ、他誌で発表された論文や総説を「体力科学あるいはJPFISM」に掲載する場合、逆に「体力科学あるいはJPFISM」に発表された論文や総説を他誌に掲載する場合の、二次出版対応方法が説明された。具体的な対応は下記の通りとするとの説明がなされた。

(A) 他誌に発表された論文や総説を、体力科学あるいはJPFISMに二次出版として掲載する際は、以下の全てが満たされなければならない。

1) 推薦者あるいは著者からの依頼または日本体力医学会からの要請を受け、編集委員長が二次出版の必要ありと認めていること。

なお、推薦者とは、編集委員長あるいは編集委員とする。

- 2) 他誌から二次出版についての合意が得られていること。

この場合、推薦者あるいは著者が他誌編集委員会あるいは出版社より合意を得るものとする。

- 3) 二次出版であることをタイトルの一部に明示すること。

(B) 体力科学あるいはJPFISMに発表された論文や総説を、二次出版として他誌に掲載する際には、以下の全てが満たされなければならない。

- 1) 他誌編集委員長の依頼や日本体力医学会からの要請、あるいは著者からの依頼があり、二次出版の必要ありと認めていること。
- 2) 他誌から二次出版についての合意が得られていること。

この場合、推薦者あるいは著者が他誌編集委員会あるいは出版社より合意を得るものとする。

- 3) 本誌掲載号発刊後、1か月以上経過していること。
- 4) 二次出版であることをタイトルの一部に明示すること。

・投稿規定を大幅超過した投稿原稿について

論文あるいは総説の長さが投稿規定を大幅に超過した投稿原稿については、当面の間受付を認めない、こととする旨、報告があった。また、その際の基準は、投稿規定+一頁程度とするとの説明があった。

・重複（二重）掲載について

重複（二重）掲載とは、「既に印刷または電子的媒体で出版された論文と重複する内容の論文を掲載すること、あるいは掲載しようとしていること」との説明がなされ、重複（二重）掲載を疑う判断基準には、「国際医学雑誌編集者委員会の重複（二重）掲載に関する指針」を用いる旨、報告があった。また、重複（二重）掲載の疑義あるいは事実が確認された場合の対応について、査読前あるいは査読中、掲載後の2つに対してそれぞれの対応について説明された。具体的な対応は以下の通りとするとの説明がなされた。

- 1) 掲載が決まる前に重複（二重）掲載の疑義が編集委員あるいは査読者から指摘された場合：疑義について編集委員長、担当編集委員ならびに編集事務局にて調査し、重複（二重）掲載の疑いがあると判断された場合、編集委員長名で責任著者に質問状を送付し、回答を得る。その回答を踏まえて、編集委員長と副委員長ならびに担当編集者にて協議し、査読前であれば受理するか否か、査読中であれば査読を続けるか否か、決定する。
- 2) 掲載後に重複（二重）掲載の疑義が読者などから指摘された場合：疑義について編集委員長、担当編集委員ならびに編集事務局にて調査し、重複（二重）掲載の

疑いがあると判断された場合、編集委員長名で責任著者に質問状を送付し、回答を得る。

その回答を踏まえて、編集委員長と副委員長ならびに担当編集者にて対応を協議し、掲載を取り消すか否か決定する。

重複（二重）掲載の事実が確認された場合は、以下の1)～4)のいずれかあるいは複数の対応を執るものとする。

- 1) 事実が確定した時点より一年間の投稿禁止とする。
- 2) その事実を、HPおよび誌上にて公表する。
- 3) その事実を、他誌の編集者に連絡する。
- 4) すでに掲載された論文などについては、掲載を取り消す。

補足

- 1) 重複（二重）掲載の疑義が編集委員あるいは査読者から指摘される前に著者らが自発的に投稿を取り下げた場合は、本対応は適応しないものとする。
- 2) 体力科学あるいはJPFISMに掲載された論文が他誌に重複（二重）掲載されていることが判明した場合は、上記2)「掲載後に重複（二重）掲載の疑義が読者などから指摘された場合」と同様の取り扱いとし、罰則の取り扱いも同様とする。

- 3) 学術委員会報告

・スポーツ医学研修会実行委員会報告
(竹森学術委員長)

研修会終了後の参加者アンケートで、研究の相談に応じて欲しいという意見が複数あり、研修会のプログラムの中に、「研究計画・立案」等を盛り込むことを検討中である、との報告がなされた。

- 4) 評議員選考委員会報告（大野委員長）

学会誌に今年も評議員募集のチラシを同封し、広く評議員候補者を募集するとの報告があった。

- 5) 渉外委員会報告（永富委員長）

・参加助成制度について

ACSMのみ参加助成をしていたが、4月以降に参加する国際学会で採択された演題に対してトラベルグラントを与える方向で検討中であるとの報告がなされた。

・ECSS交流シンポジウムについて

ECSS交流シンポジウムについて宮地理事を座長とし、福典之会員が演者としてシンポジウムを開催予定であると報告があった。

・脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャートについて

井上監事が委員として活動していた脳心血管病協議会について、小熊祐子渉外委員が担当を引き継ぐこと、現在は論文「脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート」の英文化を進めている所である、と進捗状況が報告された。

- 6) 倫理委員会報告（成田委員長）

所属施設に倫理審査委員会がなく、倫理審査が受けられない会員の研究に関して、倫理審査が受け付けられるような体制の整備を進めていく旨、報告が

あった。

7) 将来構想検討委員会報告 (能勢委員長)

メールを用いて、将来構想検討委員会を開催し、「2020年東京オリンピック、パラリンピック」開催を機会に、本学会をどのように盛り上げていくかを検討した結果について、配布資料に基づき、次のような報告がなされた。

- ・学会理念の確認 (学会ホームページの充実)
- ・学会独自の運動指針の発刊 (競技・健康スポーツ、熱中症予防)
- ・指針に沿った「学会開催」「研究プロジェクト」「新しいエビデンスの普及・啓発活動」の推進
- ・機関誌 (JPFMS) の充実 (競技スポーツの論文の掲載など)
- ・他分野の複数学会との連携強化 (日本リハ医学会など)

などが、同委員会委員から寄せられた意見であるとの説明がなされた。これらの意見に対し、鈴木理事長より、1) 体力医学会の理念等は体力医学会ホームページに掲載されている、2) 学術刊行物については、学術刊行物小委員会を立ち上げ、来年の体力医学会大会開催日頃の発刊を目標に活動開始している、3) JPFMSについては、編集委員会を中心に、当面インパクトファクター1.0以上を目指して鋭意努力している、4) 他学会との連携については、2019年開催のFAOPS2019 Kobe: Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies 2019 Congress (アジア・オセアニア生理学会連合2019年大会)は日本生理学会と共催することが決定しており、学術刊行物の刊行目的は臨床学会との連携を視野に入れた事業である旨、追加された。

8) 広報委員会 (甲斐委員長)

学会の理念をどのように宣伝していくか、検討していくとの報告がなされた。

9) 利益相反委員会 (宮地委員長)

次回投稿規定が改定される時に、利益相反に関する事項を改定する予定である旨、報告された。

10) 学術刊行物小委員会 (永富委員長)

前回理事会から2回委員会を開催したことが報告され、刊行物の内容については次回5月理事会で提示するよう進めていると、進捗状況が報告された。また、本刊行物は医学教育カリキュラムの中で、運動生理学、運動療法、運動処方、スポーツ医学等を全く学んで来なかった臨床の医師および医療従事者の卒後教育の意味合いを込めた内容、刊行物であり、日本医師会の主だった先生に本刊行物に対する“推薦のこぼ”を書いてもらえば、良い宣伝になるのではないか、との提案があった。

2. 第71回 (岩手) 大会の進捗状況について

(立身第71回大会長)

配布資料に基づき、大会の準備状況等について報告がなされた。

会 期: 2016年9月23日(金) - 25日(日)

会 場: アイーナ, マリオス

テーマ: 東北の再生と復興をめざすスポーツ振興と体力医学

3. 第72回 (愛媛) 大会の進捗状況について

(山本第72回大会事務局)

大会の準備状況等について報告がなされた。

会 期: 2017年9月16日(土) - 18日(月)

会 場: 愛媛大学城北キャンパス, 松山大学文京キャンパス